

川崎陸送

QCサークル代表発表大会で「TEAM634」が2連覇  
燃費向上に向け1%改善ごとに点数が累積される仕組みを導入



樋口社長(中央)と「TEAM634」のメンバー

川崎陸送(本社・東京都港区、樋口恵一社長)は11月26日、「第45回QCサークル代表発表大会」を東京都内で開催した。予選を勝ち抜いた10サークルがテーマを発表し、第1位は武蔵村山営業所の「TEAM634」(燃費の向上！パート6)で、前回に続き2連覇を達成。第2位は流通加工統括部(関東)の「チームきのたけ」(待機によるロス時間の削減・連携による効率化)、第3位に赤穂営業所の「ひよこ物流」(入庫方法の改善(荷札貼り時間の短縮))が選ばれた。なお、優秀提案では外崎満氏の「ポンプ洗浄時間短縮」、篠原希昌氏の「ローリー業務におけるチョコレート移管の異物混入防止」の2件が最優秀賞を受賞した。

「TEAM634」では、燃費の改善に継続的に取り組んでおり、前回までの課題で改善の余地があると思える課題を抽出。

最も多かった「1200/rpm以内でシフトアップ」について対策に取り組んだ。各車両(トレーラ、大型増トン車)の現状のシフトチェンジのタイミングをドライバーに書き込んでもらった結果、「1200/rpm以内でのシフトアップ」は徹底されていることが分かった。

各車両について前年同月の燃費と比較するにあたって、燃費が1%改善されるごとに点数が累積される仕組みを導入。車両ごとに点数を出し、2016年7、8月の2ヵ月で5台の合計点数100点を目標に設定した。回転数を控え、気にするための各種対策を実施したところ、5台合計で110点と目標をクリア。トレーラでは燃費の向上率が前年同期比8・7%アップという車両もあった。

坂技術士事務所の坂直登氏は、QC活動について「特性要因図では、原因を探すことが大事」、日本科学技術連盟の阿部保氏は「対策で何が一番効果があったかを説明し、苦労話も紹介してほしい」とアドバイス。来賓で見学した小山企業(本社・埼玉県戸田市)の小山嘉一郎社長は「皆さんのような改善意識をもって作業できるようになると、当社の現場ももっと良くなる実感した」と感想を述べた。